

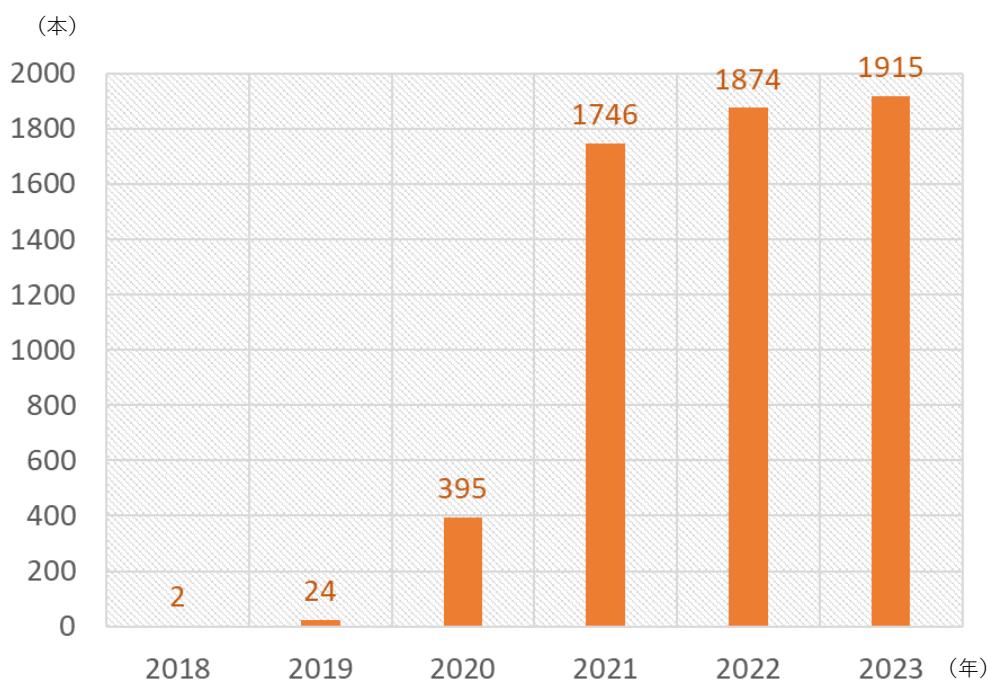
令和5年度
(2023年度)
第2回

生田緑地自然環境保全管理会議 ニュースレター

- 開催日時：令和6(2024)年2月28日(水) 10:00~12:10
- 開催場所：生田緑地整備事務所 □参加者：15名

ナラ枯れ・伐採の進捗状況についての報告

ナラ枯れ被害木本数 経年推移



●生田緑地では、2018年にナラ枯れ被害木を初めて確認し、2023年度までに累計1,915本の被害木を確認しています。新規被害木本数は、2021年度が最も多く1300本を超え、2022年度、2023年度は鈍化傾向が見られます。

新規での被害は減っていますが、倒伏するリスクの高い枯れ木は依然として多く、伐採の対応を引き続き継続して行っています。

ナラ枯れについては
右記をご参照ください



生田緑地の自然帳vol.1

- 2023年度に伐採した箇所との報告と2024年度の通行止め予定箇所が共有されました。2024年度も通行止めとなる県の木エリア・野鳥の森エリア・初山エリアにおける、園路外での倒木処理及び伐採作業については、当該エリアの活動団体と協議を行った上、作業を実施していきます。

植生管理 ふりかえり & これから について

- 岩田会長（かわさき自然調査団）より、これまで実施してきた皆伐更新の経緯や手法、植生の変化等について共有がありました。
- ☞2006年、10年後をイメージした目標植生を設定する場として植生管理協議会（自然環境保全管理会議の前身）発足。
- ☞2009年～、生田緑地でも起こるかもしれないナラ枯れを予測し、飯室山南地区で皆伐更新の計画・実施。
- ☞飯室山南地区での皆伐更新を通してわかったこと：埋土種子が豊富であり、発芽した実生を育てるためには、実生が展葉している夏期のアズマネザサ刈りが重要。



- 提案として「現在伐採更新を実践している市民ボランティア 里山倶楽部の活動範囲を限定せず、各団体が管理するエリアにおいても大径木伐採が必要な場合は支援する」という雑木林再生と担い手育成の強化策が挙げられました。

伐採した跡地のササ刈りも
大切です。
将来雑木林をつくる株を残しながら
アズマネザサだけを刈ります。

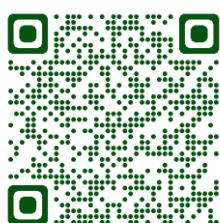


里山倶楽部
について



雑木林を楽しもう！
活動メンバー募集中！

植生管理計画
とは？



- 植生管理計画が2013年に川崎市により策定されてから2023年3月で10年が経過しました。

課題：現在、54箇所のエリアに管理計画が策定されています。

- ☞令和2年以降、ナラ枯れ被害への対応が急務となり、新たな管理計画エリアの策定が滞っていること
- ☞生田緑地全域に植生管理計画を設定する当初計画が現実的かどうか

などが挙げられ「生田緑地ビジョン アクションプラン」の取りまとめと連動して2024年度に検討を進めていくことになりました。

生田緑地ビジョン
の改定について



全国都市緑化かわさきフェア 生田緑地会場について

- 自然会議の関わり方について、川崎市フェア担当者から案の共有がありました。

- ☞市民協働活動について知ってもらうエリアでの自然会議紹介パネル展示
- ☞市民部会（里山倶楽部）参加者による自然観察ガイドツアー

などを自然会議として連携予定です。

